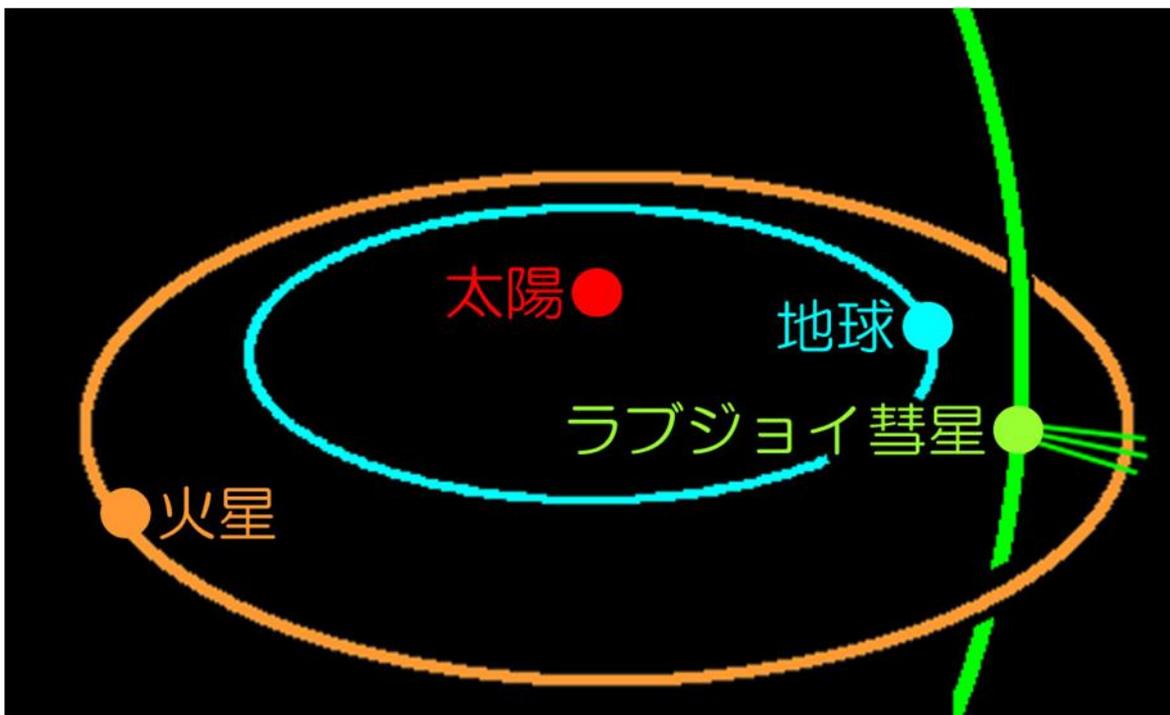


「ラブジョイ彗星の軌道」

「彗星のごとく現れる・・・」という比喻は、実物の彗星にも当てはまります。彗星も立派な太陽系の天体ですが、出現のしかたがあまりにも気まぐれで、軌道も一定ではありません。エンケ彗星のようにたった3年余りで太陽を一周するものもあれば、ハレー彗星のように76年もかかって、一生のうちに2回出会うのが難しいものもあります。アイソン彗星は、楕円軌道ではなく放物線軌道だったので、1回限りの太陽接近でした（近づきすぎて蒸発してしまいましたが・・・）

今、冬の夜空に「ラブジョイ彗星 (C/2014 Q2)」が見えています。この彗星、かなりの変わりものです。普通の彗星は、太陽系の惑星の軌道面に近いところを周回しています。彗星は太陽に近づかないと尾が見えません。太陽に近いということは、日没直後か日の出直前にしか観測できないということです。ところがラブジョイ彗星は、太陽系の惑星軌道面とほぼ垂直の軌道を持っています。



「ラブジョイ彗星 (C/2014 Q2) の軌道略図」 作図 ; C. Tanaka

図でわかる通り、ラブジョイ彗星は太陽系軌道面を垂直に横切って進むばかりでなく、地球の火星の間を「すり抜けて」います。つまり、ラブジョイ彗星は、地球から見て常に太陽と反対側に位置し、一晩中観測が可能なわけです。これは火星や木星と同じで、「外惑星風彗星」と呼ぶべき、非常に珍しい彗星です。もちろん、太陽から常に1天文単位（1天文単位＝地球と太陽の実平均距離）以上離れているので、等級（明るさ）も尾の長さもあまり期待できません。しかし、火星と地球の軌道の間を通り抜けた（近日点通過）以降は、北半球でよく見えるようになりました。写真撮影にも、一応成功しました。次回はそれを紹介したいと思います。

*** 今回のラブジョイ彗星は、2011年に発見されたラブジョイ彗星 (C/2011 W3) とは別の彗星です。**